

# 海洋島

第5巻 第4号 (通巻41号)

東京都小笠原水産センター

2003年8月15日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545 Fax. 04998-2-2546

## 北硫黄島のマルサザエが減少

水産センターでは6月29日から7月2日にかけて北硫黄島でトビウオ来遊状況調査を行いました。この時島に上陸してマルサザエの生息状況についても調査しました。マルサザエは小笠原諸島では数少ない食用の貝で、以前は北硫黄島の磯に多数生息していました。水産センターの1988年の調査では石野村海岸線付近の10㎡に101個、平均生息数は10.1個/㎡でしたが、今回は3㎡に15個、平均5.0個/㎡と半減していました。しかも、今回の調査では生息数の多い場所で計数しており、面積を広くとればこれより遙かに少なくなります。調査員が海岸線約280mを歩きながらマルサザエを数えた結果ではわずか38個体、かつての面影は全くありません。貝のサイズも小さくなっていました。生息数が減少した理由は推測の域を出ませんが、採りやすい貝ですので漁獲の影響も考えられます。



写真1 マルサザエ

発生初期の段階では卵黄から栄養を吸収しますが、中期になると胎盤が形成され、胎仔は母体から「へその緒」を通して栄養を得るという最も特化した生殖方法をとります。今回採集された胎仔は生まれる直前と見られ、へその緒で胎仔がつながっている様子が観察されました(写真3)。アカシュモクザメの妊娠期間は約1年で、6~7月が出産期及び交尾期だと言われています。毎年7月頃には、父島の海岸でも50cmほどのシュモクザメの子供が見られます。生まれたばかりの子ザメにはへその跡があるので、もし釣りをしている釣り上げたときには、へそがあるか確認してみてください。ただし十分な注意を忘れないで!

(東海大学大学院生 沼口麻子)



写真2 漁獲されたアカシュモクザメ

## アカシュモクザメの妊娠

2003年6月に父島でアカシュモクザメが漁獲されました(写真2)。全長3mで魚体の重さは156kgのメスでした。お腹の中には38cm~48cmほどの26匹(オス12匹、メス14匹)の子ザメを妊娠していました。サメはクジラ・イルカ類と同様に生態系の頂点を占める生き物で、繁殖は体内受精を行い、産仔数も少ないという特徴があります。胎生であるアカシュモクザメの胎仔は、



写真3 アカシュモクザメの胎仔